

新潟大学歯学部附属病院最後の看護部長として

看護部長 二瓶 恵子



平成14年4月1日より看護部長の任を受けました二瓶です。

就任が決定する頃には、歯学部附属病院と医学部附属病院の統合が決まって看護部も一元化するという方針に固まりました。しかし、同一組織になるということのみで具体的方針はなく、何から手をつけるべきか色々考えました。

しかし、私としては1年半しか余裕はありません。看護師には、歯学部附属病院に在籍したという証を持って欲しくて、口腔ケア・摂食嚥下訓練等自信を持ってくれるように働きかけました。

平成14年度新潟県の看護協会にて、新潟大学歯学部附属病院の看護実践が報告できたことは何かの自信につながってくれる事と信じております。

また、歯学部附属病院として、ISO9001品質マネジメント認証取得に向かっております（平成15年3月取得予定）。この事は、歯学部附属病院の体制が外部評価を受け、質の向上を常に考えていくことが出来、医歯統合に向けて組織・業務が体系化した事は間違いないようです。

「病院の統合」だけでなく「大学の独立行政法人化に向けて」今年は、改革を余儀なくされます。歯学部附属病院の看護部としては、平成15年9月で無くなるのは確かですので寂しい感は否めません。しかし、病院が無くなるわけではありませんので、新潟大学としての繋がりを大切にしたい組織として再出発に備えたいと考えております。

看護部としての使命の原点に帰り、物事を判断しなければと考えております。

突き詰めれば、人間がこの地球上で末永く生活

していく為に、看護部（歯学部附属病院だけでなく新潟大学の看護部）として、患者を中心に医療人としてとるべき道を看護師がとれるよう看護管理部として体制を整える必要があります。

本院では、看護師の数は、削減されてきておりますが、歯科衛生士の数はパートではありますがここ数年増えてきております。

歯科外来において、看護師としての存在意義に関して随分と悩んできました。

しかし、口腔ケアや摂食指導訓練等実践していく中で、患者さまの反応に応じて看護師の満足度もあがってきています。

歯科外来における看護師の存在価値を認識できるところをはっきりと打ち出し、他職種にゆだねるべきところはゆだね、各個人が誇りを持って働き、患者さまに満足してもらえる病院としなければいけないのは明白です。

過去、歯学部ニュースで「看護部だより」として歯学部附属病院の看護部の様子を伝えてきました。「患者さん・歯科医師・看護師の関係（看護師は歯科医師のパートナーになれるか）」「Evidence Based MedicineとEvidence Based “Nursing”の実施に向けて」「本院看護部の新看護体制」「看護部における医療事故対策」「看護部における摂食・嚥下研究会について」です。

これらは、我が看護部において全部継続していかねばならない事であり課題でもあります。

私としては、職業として仕事をするという事は、自己実現に向かっていく手段であると思っています。

平成14年度の看護部目標として、

1. 質が保証できる看護実践を行う。

2. 職業を通して誇れる人間になる。

をあげました。

各部署での目標を下記に設定し努力しているところと
ころです。

外来部門

1. 外来看護の特殊性を踏まえ、的確に看護ケアを必要とする患者を把握し、専門的知識・技術を提供できる能力を養う。
2. 医療事故を未然に防ぐ為に、ヒヤリ・ハットの共有及び業務改善に努める。
3. 流動性勤務が円滑に行えるように、各自自覚を持って望み、各診療室では受入体制を整える。

病棟部門

1. あらゆる事故の可能性を考えながら行動し、医療事故を起さない。
2. 看護を受ける側も、看護する側も共に満足できる看護を提供する。
3. 病棟・外来における患者指導を充実させる。

中央手術室・滅菌材料室部門

1. 医療事故を未然に防ぎ、安全に手術ができる。

2. 手術室における患者ケアの充実

3. 勤務交替時新人教育が徹底して行われる。
4. 各診療室のデッドストックを減らしサプライ業務の効率化を行う。
5. 各診療室で行っているセット器具の中央化を行う。

医学部附属病院と統合しても、しばらくは、歯学部附属病院だけの看護部長がいなくなる（医歯学総合病院の看護部組織の一員となり、病棟・手術室の移転は数年先になります）だけで、各看護師長の業務は、現在より幅広くなるもの見かけ上なら変わりはありません。我が看護部は、より良い病院（患者さまに満足していただき、職員にとっても魅力ある病院）にしていくべき改革につなげたく努力致しますので、皆様、看護部に対するご意見・ご要望等何なりとお寄せ戴きたいと思っております。

